

持ち帰り・学びの成果

1

“もやもや感”を持ち帰る

社会課題は簡単に解決しない(“もやもや感”を持ち帰る)が、「考え続けること(探究心・自分事化)」が重要。

2

多様性の尊重と対話の重要性を学ぶ

社会課題は立場や考え方によって様々な意見がある。「多様性の尊重と対話の重要性」AorBの二者択一ではなく、議論によって第三の道(C)が開かれることもある。

3

「見極め力」「判断力」を身につける

情報過多の社会における「物事の本質を見極める力」や「判断力(リテラシー)」を身につける。情報とどう向き合い選択・判断するか。自分で見聞きした生の情報の重要性。

4

変化や逆境への向き合い方を学ぶ

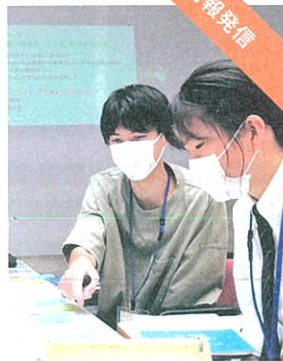
変化や逆境への向き合い方(人生観・生き方)。進路選択や生き方について希望と不安の狭間に立つ生徒の皆さんに、挑戦することの大切さを伝える。

福島で感じた希望。それは明日の学びの原動力 ▶▶ 参加者自身の成長へ!

事例

ふくしま学宿 チームHYOGO

ホープツーリズムを体験した兵庫県内の高校生たちが、「福島の今」を伝えるために同プロジェクトを発足。福島の学びを持ち帰り、地元の兵庫で発表会や交流会を開催し、教訓や気づきを発信し続けています。



情報発信

灘高等学校 東北企画

東北を応援する活動「東北企画」の一環でホープツーリズムに参加。「福島のため」の取組は、現在では参加者の自己探究やリーダー教育の場となり、得た学びを毎年文化祭で発表するなど、校内行事のひとつになっています。



貢献から探究へ

お茶の水女子大学 附属高等学校

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)として教育プログラムにホープツーリズムを起用。「福島フィールドワーク」と題して、科学的根拠に基づいた価値判断・意思決定について継続的に学んでいます。



SSH指定校

大阪学芸 中等教育学校

ツアー終了後もホープツーリズムで訪れた地域や団体と積極的に交流。生徒主導で福島県内で交流イベントを開催(企画立案、運営)するなど、活発な取組につながっています。



交流拡大